

ノーモア・ミナマタを語り継ぎ、住みよいまちづくりを！

# NPO みなまた

No.16 (2005年8月)



水俣高校の生徒さん達が丹精込めて作ったサラダ玉ねぎを届けて下さいました。

その日は新聞社のかたが取材にこられるとのこと。代表で受け取るようになったKさんは少々緊張気味です。ピンポン！チャイムが鳴りました。「こんにちは〜」。元気な女子生徒さんたちに、Kさんも「いらっしゃ〜い」と満面の笑みでご挨拶。ひとりでは抱えきれないくらいかごいっぱいサラダ玉ねぎでした。

早速、夕ご飯のおかずに登場しました。春の香りを届けてくださった生徒さんに感謝です。

とても楽しく良い思い出になった一日でした。

榎木丸 晃 (キトさん家 介護士)

\* この玉葱は水俣高校の総合学習でのとりくみで収穫されたものです。市内の福祉施設や介護施設に届けられました



発行：NPOみなまた 発行責任者：橋口三郎 ☎867-0045 水俣市桜井町2-2-20

☎0966-62-9822 fax0966-62-1154 Eメール：npominam@ybb.ne.jp

# NPOみなまた 第5回 定期総会報告

5月29日（日）、第5回定期総会を当法人事務所3階会議室で、248名の出席（委任状219人）のもと開催しました。

総会では、昨年度の活動の総括をしましたが、次のように情勢の特徴を明らかにしました。

第一は、昨年10月15日、水俣病関西訴訟最高裁判決がだされたもとの、水俣病として救済を求める認定申請者が急増していることにみられるように水俣病問題が新たな展開をしていること。

第二に、水俣市木臼野地区に突如として浮上した産業廃棄物最終処分場建設問題。水俣市民の多くがこれに反対の意思表示をし、「水俣の命と水を守る市民の会」が結成され、処分場建設阻止のたたかいが続いていること。

第三に、介護をめぐる状況では2006年度から介護保険制度が大幅に改定されることになるので、必要な運動をすすめることです。

NPOみなまたは、いずれの活動にも積極的に参加し、役割を果たしてきました。

水俣病の課題では水俣病の感覚障害について、当法人副代表理事の高岡滋医師の論文がアメリカの医学専門誌に掲載されました。関西訴訟最高裁判決以後急増した水俣病申請希望者の要求に応える取り組みが水俣協立病院を軸に始まり、私たちも地域での相談会や検診に積極的に参加してきました。また、昨年12月には当法人の主催で水俣病の病像学習会を行い約90名の参加で成功させました。これは水俣病公式発見50周年を前に、課題を今後につないでいくために今年度も開催する予定です。

産業廃棄物最終処分場建設問題については、当法人の機関紙を通じて全国の会員のみなさんにご協力をお願いしましたが、212,286円寄せられ「市民の会」に贈ることができました。また市民の会主催で行われた馬奈木昭雄弁護士の講演を冊子にし広める取り組みも行っています。

さらに当法人の事業展開とも密接に関係するのが介護保険の問題です。いま国会で審議されているのは、公的負担を減らして利用者・国民には大幅な負担を強いるなど弱いもの切捨ての制度といえます。

グループホームや小規模多機能ホームは地域密着型サービスの体系に組み込まれ、これまで県が行っていた指定、指導、監査の権限が市町村に移ります。また介護報酬についても市町村が決めるなど、2006年度から介護事業の仕組みが大きく変ることになるのです。



ところで介護事業については、4つの事業所で129万円の営業利益を得ることができ、経営的にも見通しが持てる状況を切り開きました。3つのグループホームは外部評価を受審し、良い評価を得ました。詳細はWAM・NET上で公表されています。4つの事業所のこの一年間の利用者数は69名でした。その中で高岡医師はグループホーム入居者の入居後の変化についてまとめ、05年度リハビリテーション学会で発表しました。こうした日々の実践をまとめる作業は介護の質向上のためにも重要であり、引き続き課題です。

05年度は、新たな展開が始まっている水俣病問題について、研究や運動を支え協力すること、市民講座の開催等々昨年度に引き続き最重要課題として取り組みます。

また、産廃最終処分場建設阻止に向けて、「市民の会」の活動に積極的に参加するなど取り組みを強化します。

介護事業については、三郎の家の増改築、野川の家に移転、ふれあいの家の老朽化対策等を解決し、通所介護事業を軌道に乗せ、経営的な安定化が最重要方針として確認されました。

水俣は、来年水俣病公式発見50年目を迎えます。私たちの活動は、4年目に入りますが、いまの時期が今後の水俣にとってもっとも大切な時期ではないかと思っています。

今後とも全国のみなさまのお力添えを心からお願い申し上げます。

上野 恵子（NPOみなまた事務局長代理）

**代表理事：**橋口 三郎（水俣病被害者の会全国連絡会幹事長）  
**副代表理事：**高岡 滋（医師・水俣協立病院総院長）  
**理事：**板井 優（弁護士・水俣病訴訟弁護団事務局長）  
上野 恵子（看護師・医療法人芳和会看護部長）  
打上 良子（主婦・出水市生活と健康を守る会事務局）  
江口 睦美（社会保険労務士）  
柏木 敦子（三郎の家管理者）  
草野 信子（主婦・水俣病被害者の会事務局）  
小崎 繁敏（水俣民主商工会事務局）  
坂本 昭子（ふれあいの家管理者）  
中山 裕二（水俣病被害者の会事務局長）  
中嶋 敏子（薬剤師・出水郡薬剤師会副会長）  
林 貞子（博愛家政婦紹介所代表）  
百崎 星子（介護福祉士・のがわの家管理者）  
森 霞雄（水俣病被害者の会会長）  
嘉松 節子（准看護師）  
**監事：**山近 茂（さくら薬局事務長）  
松田 寿生（水俣協立病院事務長）  
**顧問：**猪飼 隆明（大阪大学教授）  
金子 定邦（医師・高尾野病院）  
千場 茂勝（弁護士・水俣病訴訟弁護団団長）  
藤野 糺（医師・水俣協立病院名誉院長）  
永野 ユミ（在宅ケア研究会会長）

（50音順）

## ♪のがわの家が移転しました♪

野川の家が、7月1日より古城に移転し「のがわの家」としてスタートしました。のがわの家は閑静な住宅街にあり、静かなたたずまいのなかで、ご近所の方々に見守られながら過ごすことができます。施設長、スタッフ、電話番号は変わりません。新しい住所は水俣市古城1丁目3-15です。今後とも、みなさまのご支援をお願いいたします。



近所の方もお招きして開所の祝い  
“ひょうきんおどり”におもわず笑顔が

## ▶三郎の家が増改築！◀

グループホームの居室が1部屋ふえて、計8室になりました。

また、今まで三郎の家にはデイサービス専用のお風呂が設置されておらず、ご不便をおかけしてまいりましたが、この度の増改築で設置されました。

さらにキッチンのカウンターが取り払われ、広々とした雰囲気の中で利用者みなさんと過ごすことができるようになりました。

みなさんのご利用をお待ちしております。

## ★はじめまして★

キトさん家でお世話になることになりました。生き生きと動かれるみなさんの姿を見て、思い出のいっぱい詰まった「家」で暮らせるようなシステムやサポートがあれば、と入居者の方の「家」への思いについて考えさせられました。

グループホームが公民館のように地域があれば懐かしい景色も地域との交流も思い出も変わらないかもしれません。迷い悩みの日々です。皆様の御指導をよろしく申し上げます。

キトさん家施設長 宇都宮 美千代



## いま、<sup>な</sup>為すべきなり



今からおよそ30年前に、水俣市内の若手僧侶による会を発足しました。その名も『若院会』(じゃくいんかい)。月に一度の親睦会であります。浄土真宗6人・浄土宗1人・曹洞宗1人・そのほか趣旨に賛同する外部の人2人・計10人の集まりです。

いろいろなことにかこつけて、酒盃を傾ける日々であったような気がします。が、年輪を重ねる毎に会の名前にふさわしくない年齢(?)となり、又それぞれが多忙になって、会の存在も変わってきました。そんな時、代替わりし新しい発想の若き僧侶の参加により、再び会を発足する機運が高まり、水俣市仏教会のの下に再スタートして2年であります。会議とはいえ、まずは乾杯。

飲むほどに話は尽きることはありません。3人寄れば文殊の知恵ではないが、イラクの自衛隊派遣の話になり、宗教者として黙っていて良いのかという雰囲気から急遽講演会と写真展を開催する運びとなりました。賛同者の支援により、手書きの看板、横幕、資金集め、チラシ作成、行動アピールなどなど。やればできるものです。

限られた準備期間ではありましたが、平成16年4月10日、水俣市仏教会主催で「お坊さんのイラク戦争」の講演会・写真展を開催することができました。

御仏の教えを説く私たちが限りある命を無意味な戦争で失うことがないように、また、戦争のない平和な世の中を作り上げなければいけないという事を訴えることが出来たのは本当にいい機会であったと思います。

この度、「みなまた9条の会」代表を引きうけました。人の命が失われる戦争は国家の戦略がいかなるものであっても許されるものではないと考えます。そのためにも憲法9条は不可欠であり思想信条の違いを越えて守っていくことが今よりも大切なことだと思っています。

時は人を待たずと言います。今、出来ることを今やらなければ時期を失ってしまいます。会としての力はまだまだ小さいかも知れませんが、ひとつずつ、ひとつずつ出来ることから出来るだけやれる会に成長させたいと思います。今後もこの運動が大きく広まっていくことを切に願っています。

みなまた9条の会代表委員  
田中 孝典(水俣市仏教会会長)

### 活動日誌(2005年5月~7月)

#### NPOみなまた

- 5月18日 介護部会
- 20日 NPOみなまた第6回理事会
- 29日 NPOみなまた第5回定期総会
- 30日 三郎の家増改築後の変更届提出(鹿児島県庁)
- 6月6日 三郎の家グループホーム定員変更届受理
- 22日 介護部会
- 7月1日 野川の家移転、のがわの家に名称変更
- 15日 2005年度NPOみなまた第2回理事会
- 20日 介護部会

#### 関係団体

- 5月1日 水俣病犠牲者慰霊式
- 6日 民主党水俣病調査団受け入れ
- 6月9日 第30回全国公害被害者総行動(~10日)
- 12日 新潟水俣病公表40周年集会(~2日・東京)
- 30日 環境省新施策説明会(水俣病情報センター)
- 7月27日 水俣病患者三団体による環境省要請
- 29日 水俣病公式確認50年事業実行委員会設立総会

### 水俣病現地調査のお知らせ

昨年の関西訴訟最高裁判決後、水俣周辺地域に住む人たちを中心に水俣病認定申請をする動きが広がっています。水俣病公式発見から50年を迎える今こそ、きっちりした解決をしなければなりません。

全国のみなさまの、絶大なるご支援を心からお願いいたします。

- ☆日時: 8月28日 15時~
- ☆場所: 水俣市公民館ホール
- ☆主催: 水俣病不知火患者会

#### ☆水俣病の冊子を発行しました

「新たにわかってきた水俣病のはなし」

編集 発行: NPOみなまた

一冊: 300円